DP-41

咬合崩壊を伴った広範型StageIV GradeB歯周炎患者に対し、 EMDおよびコーヌステレスコープ義歯を用いて歯周組織の 安静化を図った8年経過症例

An eight year case report of a patient with generalized Stage IV Grade C periodontitis with posterior bite collapse stabilized using EMD and a Konus telescope denture

〇 福嶋 太郎

Taro Fukushima

医療法人社団Fortune Arch 福嶋歯科医院

Medical Corporation Fortune Arch, Fukushima Dental Clinic



①手術の患者同意取得状況:取得済み

②発表の患者同意取得状況:取得済み

③未承認薬等使用状況:厚生労働省認可薬・材料を使用

④発表に際し開示すべき企業・団体との利益相反関係はない

【 はじめに 】

咬合崩壊を伴った広範型StageIV GradeB歯周炎患者に対し、EMDおよ びコーヌステレスコープ義歯を用いて歯周組織の安静化を図りメインテ ナンス移行後、良好に8年が経過したため発表する.

【 患者概要 】

《患者》 53歳 女性 《初診日》 2009年10月

《主 訴》 包括的な歯科治療を希望

《全身的既往歴》

過度の飲酒習慣や喫煙習慣もなく、家族内に喫煙している者もいない との事であった. その他特記すべき事項は無い.

《家族歴》

父親が骨髄腫のため亡くなっており、母親は慢性心不全と診断されたが 服薬や治療は必要ないとのことであった. 両親ともに義歯を装着してい るとのことであった.

《口腔内所見》

大臼歯部を中心として歯の欠損が多数認められ、12、13、16、17、21~24、 26, 42, 44に6mm以上の歯周ポケットを認めた. デンタルエックス線所見 より上顎左右臼歯部および上顎前歯部に歯根長1/3以上の水平性の 歯槽骨吸収像と, 11, 13, 16, 17, 22, 24, 41に垂直性の骨吸収像を認めた. さらに, 16, 17, 26に3度の根分岐部病変を認めた.

(2009年10月) 初診時口腔内所見





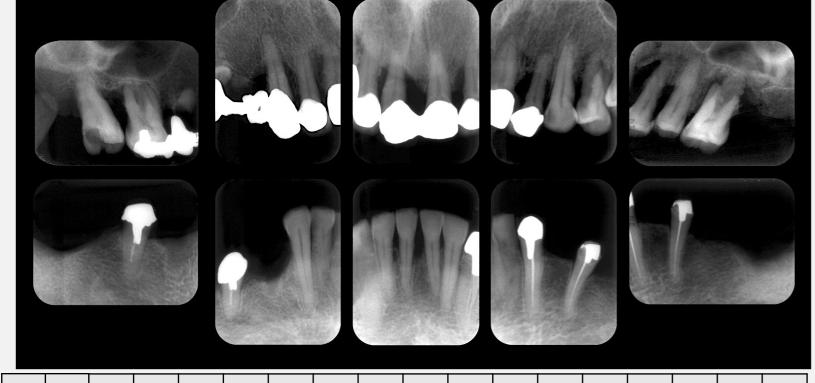




【 エックス線写真および歯周組織検査 】

		10	17	10	נו	14	10	12	- 11	21	22	23	24	25	20	21	20
動	揺度		1	0	0		0	0	1	1	2	0	2	1	1		
PPD	頬側 口蓋側		556 438	764 533	333 323		834 743	323 323	324 466	423 333	822 776	324 4 <mark>56</mark>	954 643	324 544	477 556		

19 17 16 15 14 13 19 11 21 22 23 24 25 26 27 29



PPD	舌側 頬側				33 <mark>5</mark> 224		534 423	335 426	324 323	322 323	222 324	323 323		232 333			
動招					1		0	0	0	1	1	0		0			
		48	47	46	45	44	43	42	41	31	32	33	34	35	36	37	38
【 プラークコントロールレコード 】																	

X	X	X	X	X	X	X	Ż	X	X	X	X	X	X	X	X
18	17	16	15	14	13	12	11	21	22	23	24	25	26	27	28
48	47	46	45	44	43	42	41	31	32	33	34	35	36	37	38
\times	X	X	X	\times		X		X		X	\times	X	\times	\times	\times
													PCR		. 5%

【診断】

咬合崩壊を伴った広範型歯周炎 Stage IV GradeB

【 治療方針 】

歯周基本治療後,長期的な歯周組織の安定を図ることを 目的としてEMDを用いた歯周組織再生療法 およびコーヌステレスコープ義歯による口腔機能回復治療を行う

【 初診時治療計画 】

- 1. 患者教育とモチベーション
 - (ブラッシングの重要性および欠損歯放置による外傷性咬合の 為害作用の認識)
- 2. 感染源の除去
 - (ブラッシング指導,全顎的なSRP,15,16,17,24,26の抜歯,プラーク リテンションファクターの除去)
- 3. 暫間固定および治療用義歯の装着 (13~25, 33~35, 43~45に対するプロビジョナルレストレーション
- 固定, 32~42ダイレクトボンディングによる暫間固定, 14~17, 26, 27,
- 36, 37, 46, 47に対する治療用義歯の装着) 4. 再評価後, 残存するポケットに対する歯周外科処置
 - (EMDを用いた歯周組織再生療法)
- 5. 再評価後, 口腔機能回復療法
- (上下顎に対するコーヌステレスコープ義歯の装着) 6. メインテナンスへ移行

治療計画 】 コーヌステレスコープ義歯の装着 EMDを用いた歯周組織再生療法 治療用義歯の装着 治療用義歯の装着 レジン冠による連結固定 抜歯 15 26 17 16 13 12 21 22 23 25 24 徹底したブラッシング指導及びスケーリング・ルートプレーニング 43 42 45 41 31 32 33 35 治療用義歯の装着 治療用義歯の装着 連結固定 連結固定 DBSによる固定 EMDを用いた歯周組織再生療法

コーヌステレスコープ義歯の装着

【 上顎歯周外科治療時 口腔内写真 】





【歯周基本治療修了時】 2011年5月

2011年6月

【メインテナンス移行時】 2013年11月

【 基本治療終了時 】 2011年5月

【メインテナンス移行時】

2013年11月

メインテナンス時口腔内所見

(2022年1月)

【口腔内写真】

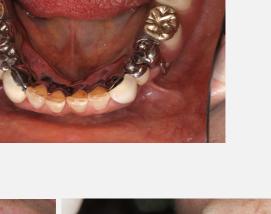


















(義歯未装着時)





エックス線写直お上び歯目組織給杏 】

•	エフノへ派子共03かい国内心戦快旦 1																
		18	17	16	15	14	13	12	11	21	22	23	24	25	26	27	28
動	摇度						0	0	0	0	0	0		0			
PPD	類側 口蓋側						222 333	223 323	222 333	323 333	323 333	323 333		422 333			



	_																
PPD	舌側 頬側				333 333		333 333	333 333	333 333	333 333	333 333	333 333		333 333			
動揺度					0		0	0	0	0	0	0		0			
		48	47	46	45	44	43	42	41	31	32	33	34	35	36	37	38

<u> </u>	フラークコントロールレコート 】														
\times	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	\times
18	17	16	15	14	13	12	11	21	22	23	24	25	26	27	
48	47	46	45	44	43	42	41	31	32	33	34	35	36	37	38
\times	\times	\times	X	\times	X	\times	X	X	\times	X	X		X	X	\times

PCR 10%

【 DICAや FバDECAの亦化 】

I FISHBAU	FLSAUZL	1		
	初診時	基本治療 終了時	メインテナン ス移行時	最新SPT時
PISA	585. 2 mm d	96. 1 mm d	0. 0 mm [*]	0. 0 mm ²
PESA	1703. 5 mm *	1140. 7 mm *	653. 7 mm *	774. 6 mm d

【治療経過・治療成績】

全顎的な口腔清掃指導およびSRPと並行して15, 16, 17, 24, 26を抜去し た. 再評価後に上顎前歯部および左側小臼歯部に対してエナメルマト リックスデリバティブを用いた歯周組織再生療法を行った。再評価検査 により全顎的に歯周ポケット深さが3mm以下になったことを確認した後、 上顎にコーヌステレスコープ義歯、下顎には治療方針を変更し、固定性 ブリッジおよび可撤性部分床義歯による口腔機能回復治療を行った. メ インテナンスへ移行後、家庭の事情により定期的な通院が困難となった たが、8年が経過した時点での歯周組織の状態および義歯は安定してい た. 初診時とメインテナンス時を比較し、PISAおよびPESAの減少が認め られたが、最新SPT時においてPESAの増加が認められた.

【 考察とまとめ 】

上顎は前歯および小臼歯が1歯残存するのみであり、歯周組織は歯根 長の約1/2まで喪失した状態であるが、コーヌステレスコープ義歯による 咬合支持および2次固定効果が得られたことにより、動揺の増加もみら れず良好に経過しているものと考えられる. 今後も徹底したプラークコン トロールを維持するとともに、厳密な咬合の管理を行っていく予定である.